

2016年度 一般社団法人 都留青年会議所 理事長所信

2016年度理事長 堀内 敏男

2016年度 スローガン

挑戦と変革 ～楽しもう 分かち合おう～

【はじめに】 私たちの手で地域を元気にしよう

私たち都留青年会議所会員は、未来に対して責任を持つ世代として、日本や地域の方向性について考え、理想の実現に向けた取組みをしていかなければなりません。山積する危機的課題を自分たちのこととして捉え、挑戦と変革による青年会議所運動で地域に価値を創造します。

〈青年会議所とは〉

希望さえ持つことが困難な戦後の1949年、「新日本の再建は我々青年の仕事である」という趣意のもと、責任感と情熱を持った青年有志は「明るい豊かな社会の実現」を理想として、日本の青年会議所運動をスタートしました。それから18年後の1967年、都留青年会議所は、全国で374番目の青年会議所として承認されて以来、このまちで理想の実現に向けた取組みを継続しています。単年度制を採用することで創造される積極的変化は、会員が様々な立場で経験を積む機会を提供し、時代と共に変化する地域の課題に即した事業を創出してきました。

〈現代社会に生きる私たちを取り巻く環境〉

現在の日本には、長期に渡る経済の低迷や、少子高齢化による生産年齢人口の減少と社会保障費の負担増加、解決が見えない震災復興や防災・減災対策、安全保障や貿易などの外交の諸課題、倫理や人権や労働に関する課題など、多岐に渡る課題が存在しています。私たちが住み暮らす都留市においても、現在の高齢化率は25%を超え、平成12年以降は人口も減少傾向にあります。これらの課題は、日本を閉塞感で覆い、コミュニケーションや価値観の多様化は、世代間ギャップや利己的な欲求を生み出す原因になっているように感じます。地域を明るく豊かにする理想を掲げて運動する私たちには、未来への責任を果たすために、閉塞感を打ち破る気概が必要です。

〈挑戦と変革の必要性〉

高度な情報化によって、現代社会は目まぐるしく変化しています。加速化する技術の進歩や情報量の増大は、私たちに変化への対応を求めています。成長の原動力であったイノベーションという言葉は、生き残りの必要条件という意味で利用される場面が増えてきています。

会員数の自然減や、活発な運動・活動の障壁となる経済の長期低迷は、都留青年会議所にもイノベーションの必要性を訴えています。青年会議所の強みである創造的な変化を利用し、積極的な挑戦をすることで、私たちの運動に変革をもたらす時期なのです。志を同じくする仲間を増やし、真に地域の役に立つ事業の検討と実施を通じて、私たち会員が成長しなければなりません。チカラを合わせて、地域に価値を創造しようという積極的な挑戦が変革をもたらす、イノベーションを創造するのです。都留青年会議所のイノベーションの起点は、私たち会員一人ひとりなのです。

私は、49回目のバトンを受けた2016年度の都留青年会議所の運動として「地域の強みを活用した地方創生への貢献事業」、「継続事業の創意工夫による価値向上」、「都留青年会議所の未来を創造する」、「都留青年会議所の強みを活かす組織運営」を掲げます。会員一人ひとりが青年会議所運動を通じて「成長と誇り」が得られるような挑戦をすることで、運動に変革を起こし、私たちの手で地域を元気にしましょう。

【社会と調和する事業を創造しよう】 存在価値＝役に立つということ

地域に対して都留青年会議所ができることはどんなことか。そして、都留青年会議所に対して自分ができることはどんなことか。様々な視点で創造的な問いを行うことで、地域に必要とされ、関わる人が笑顔になる事業を創造しましょう。社会と調和する事業を通じて、私たちの存在価値を高めることは、会員拡大の誘因となります。

〈地域創造委員会〉 地域の強みを活用した地方創生への貢献事業

経済効率を追求して進められた都市部への人口の集中は、日本の経済成長を支えて来た一方で、地方の人口流出は少子化の影響もあって、現状を維持できないほどに深刻さを増しています。一生懸命働けば必ず報われるという希望は、一億総中流という意識を生み出し、それがもたらす社会的安定感、高度経済成長を実現しました。しかし、長引く経済の低迷は、ワークライフバランスを蝕み、人口の都市集中モデルは成長の限界であることを示しています。

若者から高齢者まで、みんなが明るく豊かに暮らせるまちづくりを通じて、地域のポテンシャルを引き出そうとする地方創生が推進される今こそ、私たちの力を発揮する時です。私たちには、数々のまちづくり事業を行ってきた実績と、青年会議所運動を通じて培った人的ネットワークがあります。そしてこのまちには、豊富な自然や水、リニア実験線や都留文科大学、伝統的な産業や特徴ある農作物などの資源が数多く存在しています。また、都留市は比較的首都圏に近い場所に位置しており、ITの利活用法によっては、地域の持つポテンシャルをより高めることができるはずです。

このまちの人や資源、首都圏からの距離という魅力的な強みを武器に、志を同じくするパートナーとの協働によって青年会議所運動の可能性を広げましょう。多くの方にこのまちの魅力を伝え、まちの強みを活用して地域を活性化しましょう。それが地方創生の実現に向けた一歩となるはずです。

- ・まちの魅力を伝える事業の実施
- ・まちの強みを活用して地域を活性化する事業の実施
- ・事業を通じた会員拡大の実施

〈継続事業創造委員会〉 継続事業の創意工夫による価値向上

諸先輩方が連綿と続けて下さった風の子興譲館わんぱく相撲つる場所と献血事業は、認知度が高く、都留青年会議所の運動を代表する継続事業です。そして、一般社団法人格移行に伴う公益支出目的事業として、今後も実施していくことが決まっています。

国技である相撲を通じて自国の文化を知り、不安や恐怖を乗り越えて相撲を取る機会を提供するわんぱく相撲は、地域の未来を担う子どもたちに勝負の厳しさや礼節の大切さなどを伝えて来た素晴らしい事業です。しかし、近年のわんぱく相撲参加者は、減少傾向にあります。この現状は、私たちに本事業の再構築を促しているのではないのでしょうか。また、地域の方々のご協力をいただくことで、善意によってしか集めることができない血液を提供する献血も、いのちをつなぐ大切な事業です。だからこそ、より多くの方にご協力いただけるよう、他団体との連携の在り方や推進方法の工夫に挑戦すべきではないでしょうか。

現在があるのは、過去からの積み重ねのお蔭であることに感謝し、事業をもっと良くしたいという思いがアイデアを生むのです。それが、継続事業の価値を高めることに繋がります。私たちの運動を代表する知名度の高い事業であるからこそ、変革によって価値を高めましょう。

- ・第28回 風の子興譲館 わんぱく相撲つる場所の実施
- ・献血事業の実施
- ・事業を通じた会員拡大の実施

〈未来創造委員会〉 都留青年会議所の未来を創造する

人は不確実なものから自分を守る為に、変化を恐れる傾向があります。しかし、挑戦を繰り返すことが変革を促し、価値ある事業の創造と人としての成長に繋がるのです。変わらないために変わる積極的変化を実践してきた都留青年会議所は、2017年に50周年を迎えます。社会に調和する事業を創造し、青年会議所運動の理想に向かっていくために、私たちには志を同じくする会員の拡大と組織の活性化が必要です。

会員拡大のために私たちに変化が必要であれば、変わるための努力をしましょう。組織を活性化するた

めにできることを検討し、それに挑戦しましょう。他の青年会議所とのネットワークを強くすることで気づきを得て、私たちの運動の参考にしましょう。既存の考え方を知り、新しい視点から物事を捉えてみることで、必要なイノベーションを起こしましょう。

青年会議所運動の理想は高いものですが、私たちには志を同じくする仲間や、心強い諸先輩方がいます。都留青年会議所を変化に挑戦する機会を提供してくれる最高の「学び舎」にすることで、共に運動を展開してくれる仲間を集めましょう。そして、未来の都留青年会議所の礎を構築しましょう。

- ・各委員会と連携した会員拡大への取組みの実施
- ・都留青年会議所の運動や活動の歴史を知り、組織の活性化に向けた提案の実施
- ・主管として4LOM合同例会の実施
- ・都留青年会議所の50周年に向けた準備の実施
- ・山梨ブロック大会の準備と山梨ブロック協議会出向者へのフォローアップの実施

〈総務委員会〉 都留青年会議所の強みを活かす組織運営

青年会議所運動に挑戦して楽しみを見出そうとする気持ちや、気概を持って誰かに協力しようという分かち合いの行動は、諸先輩方から引き継いだ都留青年会議所の強みです。組織運営の要として、美点凝視の考えで仲間との相互理解を促進し、青年会議所運動・活動の楽しさや苦労を分かち合いながら、それらの熱を高めて下さい。時には熱が冷めてしまう会員が出るかもしれません。しかし、熱を帯びた会員が、その熱を分かち合うことで、熱はまた必ず上がるのです。

人には先入観というバイアスがあり、それによって物事の見方を変えてしまうことがあります。「できる」ことであっても、自分には「できない」と諦めたり、人に対して歪んだ見方をしてしまうことは、大きな機会損失です。自分の常識や考え方を疑ってみることや、やってみようとして挑戦することが、バイアスを取り払うことに繋がります。強みを活かした組織運営で会員の運動を支え、組織の活性化を実現して下さい。

- ・都留青年会議所の円滑な運営と他団体との窓口
- ・3分間スピーチ研修の実施
- ・議事録研修の実施
- ・卒業式の実施
- ・都留青年会議所 WEBサイト/SNSの運用
- ・災害対策の実施
- ・事業を通じた会員拡大の実施

【むすびに ～分かち合い 楽しもう～】

「明るい豊かな社会の実現」に向けた、49回目の挑戦が始まろうとしています。諸先輩方は、このまちのリーダーであるという自負を持って青年会議所運動を楽しみ、創意工夫によって価値ある事業を創造してきました。だからこそ、都留青年会議所は歴史を積み重ね、地域からの信頼を得てきたのだと思います。その歴史と信頼という誇りを胸に、諸先輩方から受け継いだ価値を高めながら、来たる50周年に繋げていくことが私たちの責務です。

社会に求められる事業とは何かを検討して実施し、それが人の役に立つことが都留青年会議所の存在理由となります。そして、その事業が付加価値を生むからこそ、都留青年会議所が社会と調和する団体になれるのだと思います。

青年会議所を「信頼できる仲間を探す場所」と表現した先輩方がいます。この考え方は、青年会議所の本質であると思います。仲間の存在と協働は、人間的成長をもたらす、信頼し合える生涯の財産となります。会員同士が誰かの財産になれる関係性を張り巡らせていけば、人生はより豊かになり、青年会議所運動もより楽しいものになることでしょう。

最後に、私に成長の機会を与えて下さった諸先輩方と、青年会議所運動を楽しみ、分かち合うことができる会員の存在に、心から感謝申し上げます。並びに、都留青年会議所の運動に理解と協力をして下さる会員のご家族や会社の皆様に感謝し、役割を全うしたいと思います。

1年間、どうぞ宜しくお願い致します。